

研修で
学校が
変わる

教務主任研修 まとめ

令和3年6月29日(火)

Web会議による遠隔研修(各校)



撮影 平野 愛 氏

「めざす子ども像実現に向けた カリキュラム・マネジメント」

講師 田村 知子 氏(大阪教育大学 教授)

【研修のねらい】

- 鳥取市のめざす子ども像実現に向けたカリキュラム・マネジメントについて理解を深め、教務主任として学校運営に活かす。

カリキュラムマネジメントは
子ども目線を大切にした
「学びのマネジメント」



- ・この子どもたちに**必要な**ことは？
- ・この学習活動、学校行事の**意義**は？
- ・今、**できる**ことは？
- ・どうやったら**効率的・効果的**にできる？

- カリキュラムマネジメントは特別なことではない
→やってきたこと、当たり前のことも多い
しかし、今一度、実践を見直してみる価値はある
- カリキュラムマネジメントは手続き・作業ではない
→(基本的な方法もあるけれど)考え方が大事
(応用可能)
→学校づくりの戦略である

- カリキュラムマネジメント自体は目的ではない
→子どもの学びのマネジメントが目的
- カリキュラムマネジメントは「管理職の仕事」
ではない
→授業に関わるものすべてがその主体である

授業が変わらなければカリキュラムマネジメントではない

※講師の資料・書籍等に合わせて
「カリキュラムマネジメント」
と表記しています(・なし)

学校教育目標を具現化するために、教師一人一人が自分なりにその内容を噛み砕き、自分なら何ができるのか誰と協働できるのか考えたり、今取り組もうとしていることは、子どものどんな姿につながっていくのかなどの点について、教務主任の立場で、声を出していきたい。また、子どもたちの姿を基軸にした日々の授業実践、授業改善をみんなで行っていくために、日ごろから子どもたちの姿や変容をもとにした会話ができるよう同僚性を高めるとともに、目指す子ども像を確認しつつ、チーム学校の力を高めていくよう尽力したい。(小学校教務主任)

子どもの姿がカリマネの柱であり、授業やカリキュラムをともに創っていくものだということを全職員及び児童と共有したい。そして、本校の実態に応じたカリキュラムをみんなで創りたいと思う。(小学校教務主任)

カリキュラム・マネジメントに全職員で取り組むために、ワークショップ型研修を取り入れてビジョンを共有していくことや、カリキュラムの評価・改善サイクルを成立させていくために組織づくりや時間設定をしていく必要があることを学び、職員研修に取り入れていきたいと思った。(小学校教務主任)

明日への想い(マイ・アイデア)

カリキュラム・マネジメントというときに、横断的な関係の一覧を作ることから考えると、なかなか難しいが、今年度の取組をやりつつ、より効果的なつながりを見つけていく作業をしたり、取組後の振り返りを大切にしたりすることから始めたいと思う。(中学校教務主任)

所属校はよく授業実践の情報交換や生徒や授業の様子の話が職員室で飛び交い、組織文化としてとても良いと感じている。単元配置図は作成していないが、教科を跨いでどのような学習をしているかという話もよく出てくる。今年教科書が新しくなったので、特にキャリア教育について、総合・学活などを軸とした単元配置図的なものを形に残せたらと考えている。(中学校教務主任)

カリキュラム・マネジメントを実施する際に、C(チェック)の相から始めることを学んだ。また、実践を評価するにあたっては、課題に目を向けることはもちろんのこと、成果にも十分に目を向けていきたい。自分たちの教育実践の手応えを十分に感じ、共有していくことで、次なる教育実践の充実を図ることやカリキュラム・マネジメントの推進力としていきたい。(義務教育学校教務主任)